

第1部

わかやま子ども学総合研究センターに期待すること



和歌山県知事
仁坂吉伸

昨年の和歌山信愛大学開学に続く、わかやま子ども学総合研究センターの設立、誠におめでとうございます。設立に当たり尽力してこられた関係者の方々に敬意を表しますとともに、平素から、県の教育・保育行政に多大な御理解と御協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

和歌山信愛大学は乳幼児期から学童期の子供を中心にその成長を支え、地域になくてはならない教育者を養成することを目指して、開学されました。

「子育て環境日本一」を目指す本県にとって、このような子供教育に特化した大学が県内に設立されたことは非常に意義深いことであると考え、開学前に、設置者である学校法人和歌山信愛女学院と県、県教育委員会の三者において、人材育成、教員等の資質向上、教育課題に対する研究・調査などについて連携していくことを確認し協定を締結しています。

そして、この度、「保幼小の教育を繋げる質の高い教育者・保育者の養成」という地域のニーズを満たすため「わかやま子ども学総合研究センター」が新たに設立されました。

「わかやま子ども学総合研究センター」では、子供の心身の成長・発達・生活・文化・教育・福祉・子育て支援等を総合的に研究し、その研究成果を反映した教育・社会貢献が実践されます。県、県教育委員会との協定に基づく連携が一層深化していくものと期待いたします。

近年、子供たちを取り巻く環境は大きく変化しており、児童虐待、いじめや不登校など子供に関する課題は複雑化・多様化し、教育の現場では個々の状況に即して的確に対応する力が求められています。

このような現場が直面している諸課題に対し、貴センターでは、多機関・多職種による連携を密にし、一緒に解決に向けて取り組むことを目指しておられます。また、同時に教育学、社会福祉学、心理学や小児科学など子供に関する多様な分野の研究者が連携して生まれる成果等を広く公表されるとともに、大学の授業教材として活用され、和歌山の子供を取り巻く課題を探求していかれます。

このような取組を実践されることで、現場の先生方が孤立することなく、安心して教育できる環境が整うとともに、先生方がそれぞれの立場で抱えている諸課題の解決を支え、より質の高い教育へと繋がるものと考えています。

和歌山の未来を切り拓くためには、その中心となる子供たちの健やかな成長を地域全体で支えていかなければなりません。和歌山信愛大学そしてわかやま子ども学総合研究センターは、今後、その核となる存在になると確信しています。

和歌山信愛大学で学んだ教育者たちが和歌山県の教育現場で活躍され、また、わかやま子ども学総合研究センターが地域に根ざし、本県の発展に寄与されますことを大いに期待いたします。